



No. 7

令和7年
8月4日すずか幼稚園
第2すずかきしおか幼稚園

お泊まり会(年長組)

本年度の年長組のお泊り会は、7月18日(金)～19日(土)に実施しました。前日までは天候が不順で、特に前日は大雨警報が発令されるほどの天気でした。しかし、18日当日は、少し雨がパラつくもののほぼ晴れており、天気恵まれたなと感じるほどでした。

年長児にとって「お泊り会」は、楽しみでワクワクすると同時に家から離れて宿泊するという不安要素を兼ね備えています。中には、ずいぶん前からお泊り会の話の聞くと不安になったり、行きたくないと感じたりするほどの子もいます。

しかし、そんな不安を吹き飛ばすように、年長組では以前から友だち同士の絆を強めるため集団ゲームをしたり、キャンプファイヤー時の歌やダンスなどの練習をしたりしてきました。

18日の朝、保護者の皆様の送りで登園してきた子どもたちの表情を見てみると、期待に胸をふくらませている子もいれば、やはり不安から表情がこわばっている子、保護者さんからなかなか離れない子など、いろいろなお子さんの姿がありました。

第2すずかきしおか幼稚園の子どもたちは、通園バスに乗ってすずか幼稚園に来て両園が集合し、お泊り会が始まりました。

午前中の活動は、卒園製作としての「陶芸」です。この日までに自分が作りたい作品のイメージを持って練習したので、土の感触を楽しみ、真剣な表情で作り上げていました。この日に作った作品は、今後、色付けをして焼き上げます。2月の「作品展」でお披露目しますので楽しみにしてください。

お昼ごはんは業者さんで注文した「お弁当」です。子どもたちはお弁当を食べた後、宿泊場所であるスズカトへ出発しました。

午後の活動は「ゲーム大会」です。まずは、「マリオカート ～めざせ！アイテムゲット～」というゲームで、二人一組になってマリオカート(ダンボール製)に乗り、室内体育館を一周するゲームでした。次のゲームは「パズルでございます」で、ミッキーマウスやポケモンなどのキャラクターの部品を集めて作品にするというゲームでした。ここまでのゲームはそれぞれ個人のゲームでしたが、最後の「くぐって！わたって！ちびっこ忍者参上!!」はクラス対抗でした。二人一組で忍者になりきって障害物をこなしていくゲームでした。

3種類のゲームを楽しんだ子どもたちは、その後、おやつタイムでドーナッツを食べ、各自の部屋へ行き、お風呂の準備をしました。

スズカトへ到着したころは天気も良く、キャンプファイヤーも何とか外でできそうだったのですが、ゲーム大会の途中からあめが降りだし、グラウンド状況が悪くなったために外での活動を室内に変更することになりました。

お風呂を終え、夕食を済ませ、体育館でのキャンプファイヤーでしたが、この日までにクラスで練習してきた歌やダンスで楽しむことができました。

一日の活動につかれたのか、子どもたちは就寝時刻になるとすぐに寝付いていました。

翌日は、「朝の集い」で体操をし、朝食でした。朝食後に、スズカトの近くにできた「ミジュマル公園」へ散歩がてら見学に行き、集合写真を撮りました。その後、バスに乗ってそれぞれの幼稚園に帰りました。

子どもたちにとって、思い出に残るお泊り会になったのではないのでしょうか。



他の子と比較している

他の子どもと比較するのはやめましょう。

できなかったときに「〇〇ちゃんだってできるんだから、あなたにもできるはず」と励ましていませんか。これは、言外に「どうして他の子はできるのに、あなたはできないの……」と言っているのと同じです。

こう言って育てられると子ども自身の価値基準がなくなり、自己肯定感が育まれません。すると、常に人の目を気にするようになり、人からどう見られるかを最優先にして行動するようになります。

これは、ある会社の重要な会議の風景です。会議室に1リットル入りの大きなペットボトルと紙コップが配られていました。会議で大事な話をしている最中、参加者の女性が紙コップのお茶が半分以下になっている人を見つけてはお茶を入れていました。お茶係ではなく、この女性も参加者です。

でもこのとき、女性が優先しなくてはならないことは何でしょう。会議に集中することです。男性社員からは「よく気が利く女性だ」と思われているかもしれません。また、それを狙ってこの女性は計画的に行動したのかもしれません。でも、見る人が見ればわかります。会議に集中していないことがバレバレです。

人の物差しで育った人は、「あの人いい人ね」と評価されることに常に囚われていきます。その一心で行動するため、人の目を気にして常にびくびくして人生を送ります。ありのままの自分や気持ちを出せません。

「他人を気にするいい人」と「本当にいい人」とは天地の差です。いい人タイプは「忠告・人を注意するという嫌な役目を引き受ける」ということは絶対に避けます。だから部下を持つこともできず、会社からの評価は下がります。

子どもは、「火中の栗を拾える」ひとになるように育てましょう。そのためには「他人の物差しをお母さんが持たない」ことです。

(「小学校に入る前に親がやってはいけない115のこと」より 著：立石美津子)

